

グループホーム虹の家白石
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502546		
法人名	サッポロ・ライフケア株式会社		
事業所名	グループホーム虹の家白石		
所在地	札幌市白石区平和通11丁目北3番14号		
自己評価作成日	令和7年3月3日	評価結果市町村受理日	令和7年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502546-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の平均年齢が88.4歳と高齢であり、生活の延長線上に最期の時があることを意識しながらその方にとっての普通の生活を当たり前で過ごすことが出来るよう心掛けています。昨年度は1名の方を看取らせていただいた。コロナ禍ではあったがご家族様にも満足していただける最期であった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地にある今年3月に開設22年目を迎えた1ユニットの事業所である。建物は2階建てでリビングダイニングルームは家庭的で温かい雰囲気がある。居室は1階6部屋、2階に3部屋あり、利用者は1階2階を階段やエレベーターで自由に行き来して冬季間の歩行運動ともなっており、午前と午後にも体操の時間を確保している。町内会とは馴染みの関係を維持し、運営推進会議や身体拘束ゼロ委員会への協力や利用者が参加できる町内行事の案内が届いている。家族からは職員が大変な時にできる事を手伝いたいとの意見も上がっている。散歩等で協力を得たり、本人が体調を崩した時に食べ易いものの差し入れもあるなど、本人を共に支え合う家族との関係も良好である。利用開始後は3日間で利用者がホームに慣れ親しめており、運営理念とケア理念にそった管理者と職員の心の籠った支援の実際が窺える。開設時より看取り支援に尽力している事も特筆でき、訪問診療医師等と連携し、利用者の「終」の住まいとして家族等の希望に応えたサービスを提供している。排泄支援では利用開始後から排便がスムーズになり食欲が増した利用者や安易に衛生用品使用の継続を当たり前としない視点により自立につなげている。食事の盛り付けや器の変更も本人に了解を得て開始するなど、利用者の尊厳を守り、残存能力の維持に努める介護と生活支援である。「私たちは利用者さんと一緒に、安心できる生活創りをしていきます」の理念が体现されている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とスタッフルームに理念を掲げ、朝、夕の申し送り前に唱和していた。	『虹の家白石』の運営理念と4項目のケア理念を標榜し、パンフレットへの明示や事業所内要所へ掲示している。新人職員も増えている事から、理念に則った支援が全体のものとなっているかの振り返りを行う事としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段から挨拶を交わしたり、ごみ集積場の掃除や雪かきを行っている。	町内会に加入し運営推進会議に町内会役員の協力が得られ、参加可能な行事の案内を受けている。管理者は町内会新年会の手伝いや職員もゴミ集積場の清掃や除雪を行っている。近隣住民が声をかけてくれる事も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム長が包括や個人の介護相談を電話で受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催していた。短時間での開催だったのでホームからの状況報告と委員から意見を聞くのみであった。	町内会長、町内副会長(女性部長)、地域包括支援センター、家族の出席を得て開催している。行事や活動内容、利用者状況を詳細に報告している。地域包括支援センターからの情報提供や構成員からの意見や感想も議事録に記載し、関係者へ送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本部で市役所担当者と連絡を取り事業所に伝えてくれていた。	主に法人本部が行政の担当部署と連携し、適正な運営の維持に向け協働し、管理者も事故報告や介護認定更新手続き等で連携している。管理者は白石区ケア連絡会の幹事を担っており、地域その他業種の方々と情報共有に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束について学び自己の振り返りを行い拘束をしないケアに取り組んでいる。防寒戸の施錠は感染症対策及び防犯の為にしている。	身体拘束等適正化に向けた指針を定め、身体拘束ゼロ推進委員会を運営推進会議終了後に開催しており、運営推進会議構成員が出席している。身体拘束は行っていない。これらに係る研修は、「身体拘束について具体的な行為の確認」「身体拘束についての再考及び具体的対応方法」について学んでいる。玄関は夜間のみ、防寒戸は24時間施錠している。	①身体拘束ゼロ委員会にて事例に基づく適正化の検討に期待したい。②年2回実施しているこれらに係る内部研修記録の整理に期待したい。

グループホーム虹の家白石

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	WEB研修等により、研修を受けた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の方に後見人が付いていて、そのうち1名の方は市民後見人が付いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にもそれ以降も不安、疑問、理解しかねていることがあれば何度でも説明させていただき、理解、納得をして頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ブログをこまめに更新し、意見も書き込めるようにしている。ご家族の来訪が少しずつ増えているので、機会を設けていきたい。	事業所ブログは次年度に再開する事としており、家族とは接する機会や毎月の事業所便り、運営推進会議への参加や議事録にて暮らしの様子を共有し意見等を得ている。利用者からの「行ってくるよ」(階上、階下への階段やエレベーターの移動時)にも職員は「歩くの気をつけてね」とその都度、声をかけ対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長、専務が現場へ赴き、職員の意見等を聞いている。	社長と専務は、1～2月の人員不足の期間に現場に訪れ業務や介護を担い、職員と話す機会も多く持たれている。管理者もその都度、意見等を聴取し、一緒に話し合い調整している。次年度からは新たな体制の下に、人事評価やアクションプランシートの取り組みを進める事としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を取り入れ、アクションプランシート等も使い個々が目標を持ちそれが達成できるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	身体介護の方法について職員同士で話し合い、方法の検討をするなど仕事の中で行っている。職員が少なかったため十分とは言えなかった。		

グループホーム虹の家白石

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が他グループホームの管理者と連絡を取り、情報交換していた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や要望を伺い、不安に思っていることに耳を傾け安心の確保につなげている。しっかりした信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階から関係づくりに努め、入居に対しての不安や、入居後の要望についてもよく話すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のお話を伺うことにより必要な支援と、ホームでできること、他のサービス利用が望ましいのかを説明し理解を得るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に様々な作業を共に行い楽しい時間が共有できるように努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限はあったが状況を見て玄関先で短時間会うことが出来るようにしたり、メールをしたり、ブログに写真を載せたりして情報を共有していた。息子さん亡くなった方が葬儀に参列できるように支援した。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ5類移行に伴い状況を見ながら面会や外出の機会を増やしている。	現時点での面会は、玄関や会議室で対応している。衣類交換の際は短時間の居室入室が可能で、看取りの際も一緒に過ごせるよう別途、対応している。家族と一緒にドライブや散歩、墓参、葬儀参列、年末年始に外泊する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や季節の飾り物づくり、行事など楽しみを共有し、利用者様同士話が弾む関係づくりに努めていた。		

グループホーム虹の家白石

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった方の葬儀に参列させて頂いたり、一周忌や三回忌に供物を送ったりしていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話だけでなく、職員全員が日々の生活を見守る中で利用者様の良い表情や態度を観察し、本人本位の生活をして頂けるよう努めている。	利用者との会話や表情、生活の様子から、本人の生活や介護に対する意向等を把握している。職員間での情報共有や家族からも適宜、情報を得て「本人はどうか」の視点で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は生活歴等の話を聞いた際、記録に残して情報を共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が得た情報は記録したり、お互いに情報交換したりと職員全員が利用者様一人一人、どのように過ごされているか把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りの時や普段から意見交換をし、利用者様やご家族の要望を確認しながら介護計画を見直している。	24時間チェックシートと個人記録にて情報を蓄積し、センター方式C-1-2心身の情報シートの随時の更新や、計画策定時に課題分析(アセスメント)概要の精査を行い、本人、家族の意向や希望、主治医の意見等を反映し、現状に即する介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間チェックシートにて実践・結果をチェックし、気づきやその時々声掛けを個人記録に書き、情報を共有し介護の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皆さん重度化しているため、個々に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の中に市民後見人が付いている方がいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療、週1回の訪問看護によって健康管理がされているほか、体調に変化があったときには、その都度主治医に報告し支持を頂き、必要があれば他医療機関に受診している。	協力医療機関内科医による月2回の訪問診療と週1回の訪問看護の体制を整えている。協力医療機関以外の受診は家族対応を基本としている。協力医による居宅療養管理指導書を得ており、介護の方法や療養環境における指導の下に随時連携し、毎月、家族へ指導書を送付し共有している。	

グループホーム虹の家白石

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の時に一週間の様子を話し、必要に応じて対処法など適切に対応を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は担当医より入院先の病院へ情報提供をして頂き、日常の状態は管理者が対応している。退院については早期退院が出来るように病院関係者、家族、利用者様と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を作成し、それに基づいて支援に取り組んでいる。昨年度1名の方を看取った。	利用契約時に重度化した場合の対応に係る指針を説明し同意を得ている。訪問診療の医師及び担当医師の判断に基づき、今後の方針を取り決めている。看取りの際は、看取りの指針を作成し、家族への説明と同意を得ている。開設時より看取り支援に尽力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、全職員が心構えを持てるようにしている。職員全員普通救命講習を受けた。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの作成をし、活かせるようにしているところである。	年2回昼夜を想定した火災避難訓練を実施している。ダムー人形も活用し、階下搬送訓練や平行移動訓練を行っている。R6年9月に地震・水害の垂直避難訓練を行い、災害備蓄の非常食活用体験訓練も行っている。地域の協力体制の構築に向けている。	①策定した自然災害発生時における業務継続計画（BCP）に則った訓練（研修）に期待したい。②当該訓練後、その実効性の検証と訓練実施記録の整理に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには全職員が意識しながら行っている。個人記録も頭文字で記入している。	言葉遣いや語調、振る舞いなど、人格を尊重した関わり方に努めている。話が通じ合わない時などは、違う話題に変えたり、感情を乗せずにフラットなイントネーションに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	ご自分で判断できないような場合は、二者択一などで選択していただくなどの工夫をして出来るだけ個人の希望や好みに沿えるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活のペースを考え、柔軟な対応ができるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合ったご本人が気に入っているものを着て頂けるようコミュニケーションをとりながら選んだり介助したりしている。		

グループホーム虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを考慮しメニューを考えたり、器の工夫や食べやすさを考えるなど個々に対応している。また、もやしのヒゲ取りなどを一緒に行っている。	業者の献立を使用し、昼食、夕食の入れ替えや好みを加えたメニューにするなどしている。七草入りパスタやパンバイキング、誕生日には赤飯で祝っている。十五夜にはうさぎの形の饅頭や鏡開きに餅ぬきぜんざいなど季節を感じてもらおうおやつを提供も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった時間の水分とは別に希望した時や、お手伝いの後などにコーヒー、ココア、抹茶ラテ、ミルクティやスポーツドリンク等提供している。また、栄養補助としてイラスやエンシュアリキッドを飲んでいる方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態に合わせガーゼやスポンジを使用したり、本人の力に応じ声掛けにより介助も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、パッド利用の方、車いすの方もトイレ誘導し排泄して頂いている。夜間も各利用者様の排泄パターンに合わせ声掛けトイレ誘導をさせて頂いている。	リハビリパンツから布下着への移行や自立している利用者もいる。利用者の状態に応じて声かけ誘導を行う他に、排泄に関する本人の少しの呟きや、トイレと言い出すまで待つなど、尿意の認識が保たれる支援に努めている。現在は看取り支援の利用者以外は全員トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動や腹部のマッサージをしたり、オリゴ糖を摂取して頂いたり便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回曜日を決めているが、その日の体調や気分により変更できるようにしている。	脱衣室や浴室は広く、更衣や福祉用具類活用時もゆとりがある。利用者1人週2回の入浴で、入浴の時間や翌日へなど、利用者の意思を尊重し支援している。湯加減の希望に応じている。入浴の誘いは職員が変わる時もあるが、入浴一連の支援は同じ職員が対応し、入浴時間を共にし安心感に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の表情や行動などから休息を促している。ベッドシーツは常に清潔で居室内の温度や湿度の調整をし、夜間も気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人で服薬できる方も確実に飲み込むまで見守りを行っている。内服薬変更の場合はノートに記入し確実に申し送り、症状の変化がないか観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や新聞たたみ、掃除手伝いなど出来ることを行ってもらったり、ラジオ体操などの体操や外気浴などを行っている。		

グループホーム虹の家白石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩や外気浴を行っていた。また、コロナ5類移行により家族との外出なども少しずつ増やしている。年末外泊した方1名。	天候のよい時期は事業所周辺の散歩や事業所前のベンチで外気浴を行っている。散歩は、時折、家族の協力も得ている。町内会館側にある公園へ花見に出かけている。家族との外出も再開している。家族の協力もあり、ドライブや散歩を楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人込みを避けるため買い物支援は行わなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたい等の希望があれば対応できるようにしていた。希望はなかった。携帯を持ちたいと希望をされる方が1名、充電等の支援をしていた。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーで車いすの方も安心して過ごして頂けるようになっている。日当たりの良い居間にはソファがありくつろげる空間を作っている。季節ごとの飾りつけも工夫している。	全体的に家庭的で温かい雰囲気がある。天窓や出窓から陽の入る明るいリビングダイニングで、利用者の制作した季節感ある飾りを掲示し、畳コーナーにもう一つソファを追加配置し利用者が横になれる環境作りを行っている。今年度、キッチン、ボイラーの交換や1階にもエアコンを新設し、利用者の健康面や安心して寛げる住空間に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファに座ったり、テーブル席に居たりご自分の好きな所に居て音楽やテレビ体操を行い運動を楽しんだりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を使用したり、使い勝手の良い家具を購入したり、写真や自分の好きな物を飾ったりしている。	居室にはベッド、吊り戸棚等の備品や居室入口に表札と四季折々の職員手製の飾りがある。馴染みの椅子やテレビ、寝具、愛着のある品々を持ち込んでいる。利用開始時に十分な動線を考慮したレイアウトを行い、後の家具移動を控えている。扉を開けると自分の部屋であるとの見当識の維持や安心感に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭用のエレベーターがあり下りた時にどこかわかるように表示し、エレベーター内にも行き先を表示している。また、各お部屋には表札を付けてご自分のお部屋をわかるようにしている。		